ぽらーのNEWS トピックス

管内から出品多数！

第70回岩手県畜産共進会

第70回岩手県畜産共進会黒毛和種の部が9月2日、JA全農いわて中央家畜市場（雫石町）で開かれました。JA管内からは3頭が出品され、体型や発育などの項目を審査されました。

3日に行われたホルスタイン種の部では、佐野茂樹さん（遠野市上郷町）が2頭を出品し、第4部未経産の部で「プロスペリー　ジャガードアー　フロスティー」が2等賞に選ばれました。

2等賞に選ばれた佐野さんの「プロスペリー　ジャガードアー　フロスティー」

出荷時の注意点と病害虫対策呼び掛け

ネギ出荷規格講習会

JAと県中部農業改良普及センターは9月29日、花巻市と北上市の4会場でネギの目ぞろえ会を開き、選別基準や箱詰め時の注意点を確認しました。

石鳥谷東支店（花巻市石鳥谷町）で行われた目ぞろえ会では、JAの担当者が現物を用いて出荷規格を説明し、結束位置や根切りの長さに注意を促しました。例年、病害虫の発生が増加する時期のため、防除の徹底を呼び掛けました。

現物を使って出荷時の注意点を説明するJA職員（左）

トルコギキョウ生産者が情報交換

圃場視察し技術向上目指す

花き部会草花専門部は9月9日、駒込欣也さん（遠野市上郷町）の圃場でトルコギキョウの視察研修会を開き、同市や花巻市の生産者、関係機関など約20人が参加しました。

水管理や土づくり、資材について情報交換したほか、県が駒込さんの圃場で実験中の赤色LEDや散乱光フィルムの効果を共有。参加者は質問や写真を撮りながら今後の栽培管理の参考としました。

駒込さんの圃場を見学する参加者たち

二子さといも 今年も食卓へ！

令和8年産の出荷がスタート

JAは9月24日、二子さといも選果場（北上市二子町）で令和8年産二子さといもの出発式を開きました。

生産者や関係機関ら約50人が出席。北上地域野菜部会さといも専門部の鈴木賢二部長は「天候に恵まれ、生育も順調。高値販売されることを祈りつつ、我々も色々な形でPRしたい」とあいさつしました。今年度は出荷量150t、販売額7000万円を目標に掲げています。

テープカットを行い出荷を祝う関係者たち

HPをチェック　他のニュースも、ホームページで随時更新中！

牛とふれあい酪農学ぶ

児童たちが乳搾りを体験

JA全農いわては9月17日、釜石市立双葉小学校（釜石市新町）で酪農出前教室を開き、同校の5年生19人がバター作りや乳牛とのふれあいを通じて酪農への理解を深めました。

乳搾り体験では、牛を提供した佐野茂樹さん（遠野市上郷町）がやり方を指導し、「怖がらなくても大丈夫だよ」と声を掛けられた児童たちは、慣れてくると上手に乳搾りを行っていました。

佐野さん（右）の指導で乳搾りを体験する児童

実ったお米 収穫に挑戦！

各地の小中学校で稲刈り体験

JA管内各地の小中学校では9月中旬から10月上旬にかけて、農業学習の一環として稲刈り体験が行われました。

9月18日には、北上市立鬼柳小学校の5年生40人が、三田栄孝さん（北上市鬼柳町）の田んぼで5月に植えた稲の手刈りに挑戦しました。児童たちは鎌を使って手作業で丁寧に刈り取ったほか、コンバインが稲を収穫する様子を見学し、米作りへの理解を深めました。

稲刈りを体験する児童たち

JA職員が高校生に出前授業

将来とお金について考える

JAは9月18日、岩手県立遠野緑峰高校（遠野市松崎町）で金融教育の出前授業を行い、同校の1年生22人が農業経営のシミュレーションゲームを通じて「将来とお金」について学びました。

JAの金融担当の職員7人が講師を務め、生徒たちは、助言を参考に経営方法について考えました。似田貝悠斗さんは「先を見据えることの重要性が分かった」と振り返りました。

JA職員の助言を受けて、経営方法を考える生徒たち

管内で米検査が始まる

花巻・東宮野目倉庫は全量1等

JAは9月18日、東宮野目倉庫（花巻市東宮野目）で、米の初検査に伴う「新発式」を行いました。検査員や作業員をはじめ関係者約30人が集い、安全作業を祈願しました。

倉庫作業や検査の留意点を確認した後に初検査が行われ、検査員が水分量や色を確認しました。初日に検査した「ひとめぼれ」420袋は全量1等となり、今後に弾みをつけました。

出荷された米の品質を確認する検査員